

平成18年2月3日

各位

会社名 株式会社ジェイ・エー・エー
代表者名 代表取締役会長兼CEO 長嶋重雄
(コード番号: 2394 東証第二部・JASDAQ)
問合せ先 専務取締役経営企画部長 早原弘明
(TEL. 03-3878-1176)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年11月11日の中間決算発表時に公表した平成18年3月期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成18年3月期 通期業績予想の修正

(1) 連結(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	10,747	788	318
今回修正予想(B)	10,136	343	52
増減額(B-A)	△611	△445	△266
増減率	△5.7%	△56.5%	△83.5%
ご参考(平成17年3月期実績)	10,157	726	324

(注) 連結子会社の株式会社HAA神戸での営業譲受の際に発生した営業権償却(平成15年12月期から平成19年12月期までの5年間で総額8,571百万円を均等償却)が、1,714百万円、販売費及び一般管理費に計上されております。

(2) 個別(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,004	782	475
今回修正予想(B)	4,418	426	278
増減額(B-A)	△585	△355	△196
増減率	△11.7%	△45.5%	△41.3%
ご参考(平成17年3月期実績)	4,834	754	445

2. 修正理由

個別につきましては、中古車の小売不振の影響から全国的に成約率が低迷し、また、首都圏地域のオークション会場間の競争激化もあり、葛西会場においては第3四半期まで(平成17年4月から12月まで)の成約率が前年同期比5.1ポイント減の53.9%となりました。成約率回復策として比較的成約率の低い出品会員の見直しを図るなど、第3四半期(平成17年10月から12月まで)の3ヶ月間の成約率は前年同期比3.9ポイント減と、成約率の落ち込みは底を打ったものの、競合会場に対する高成約率という優位

性が薄れたことで出品台数の集荷についても苦戦したことから、第3四半期までのオークション実績は、出品台数が前年同期比94.5%、成約台数が同86.3%となり、出品・成約台数ともにほぼ前年並みで見積もっていた計画を下回りました。第4四半期（平成18年1月から3月まで）においては成約率の回復は実現できると見込むものの、出品台数の回復は未だ限定的であると予想されることから、売上高、経常利益及び当期純利益について、前回公表予想を修正いたします。

連結におきましては、当社個別業績の修正理由に加え、前記の全国的な成約率の低迷に対し、株式会社HAA神戸（HAA神戸会場）では第3四半期までのオークション実績が、出品台数が前年同期比124.7%、成約台数が109.8%と、出品台数の大幅な増加により台数ベースでは補っているものの、出品台数の増加は売上原価の増加も伴い、収益性の面では決して効率的とは言えないのに加え、同会場敷地内に平成18年3月末竣工予定の立体駐車場（竣工後の同会場の収容台数は、約10,600台から約13,300台へ増加）を建設中のため、臨時駐車場に係る費用等が、一時的なものとはいえ想定以上に増加しており、この傾向は第4四半期までは続くものと見込まれます。

また、ドイツ連邦共和国における持分法適用関連会社については、未だ事業の立ち上げ期を脱しておらず、赤字基調が続いているため、同社に係る持分法による投資損失は前回公表予想よりも15百万円増加する見込みであります。

以上により、連結業績についても、売上高、経常利益及び当期純利益について、前回公表予想を修正いたします。

なお、1株当たり期末配当金については、前回公表予想どおりの1,850円を実施させていただく予定であります。

（注）上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上